

# 会社ぐるみ被災地支援

## 浜松の「アイジーコンサルティング」

### 社員7割超現地へ 受注ごとに義援金

浜松市中区で各種住宅事業を営む「アイジーコンサルティング」(井上剛一社長)が、会社ぐるみで東日本大震災の復興支援に取り組んでいる。社員の思いを会社が後押しし、これまでに全社員の7割を超える100人以上が現地ボランティアに自主参加。現在も受注ごとに義援金を積み立て、寄付する支援を続けている。



ワカメの出荷を手伝うアイジーコンサルティングの社員ら

3月29日、宮城県南三陸町(同社提供)

### 社長「まず自ら行動を」

同社は総勢約140人。鳥取県西部地震など大規模地震のたびに建築士資格を持つ社員を現地派遣し、家屋の強度判定などに協力してきた。東日本大震災直後には、被災地のあまりの惨状に一般社員からも「力になりたい」と声が相次いだ。

会社も5日間の有給ボランティア休暇制度を設け、交通費や宿泊費を負担するなど積極的に応援。活動場所を佐藤吉文常務の妻家のある宮城県名取市周辺と定めて、社員らの活動が始まった。

現地へは8人前後のグループを組んで、5日ごとに交代で入った。地元のコーディネーターの指示に従い昨年9月まで、がれきの処理や家屋に入った泥のかき出しなどに汗を流した。今年3、4月は、南三陸町で漁船を失った漁師らが始めたワカメ養殖も応援。水洗いから箱詰めまでを担った。

現在ではボランティア派遣は一段落したが、社内の募金活動を継続。新築工事やリフォームなどの契約受注ごとに2千~100円を義援金としている。

### 米漂着の浮玉 持ち主の元へ 1年3カ月経て再会

町民の仮設ち主の三(63)の元から1年「再会」震災の漂ら返却さてとみら浮玉は「慶明丸」の先にもあ

京都府舞鶴市で2008年、高校1年の少女が殺害された事件で、殺人などの罪に問われ、一審で無期懲役となった無職中勝美被告(63)の控訴審初公判が13日、大阪高裁(川合昌幸裁判長)で開かれ、弁護側はあらためて無罪を主張した。弁護側、検察側双方が控訴し、被告が犯行どうかの争点。弁護側による被告が犯行争点。弁護側による被告が犯行争点。弁護側による被告が犯行争点。

東日本大震災の津波で、宮城県南三陸町から米アラスカ沖のミドルトン島に漂着した養殖用の浮玉が13日、同名にもあ